項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	BRAF 遺伝子変異を有する切除不能進行再発大腸癌の検討
	研究目的	BRAF 遺伝子変異を有する大腸癌は予後不良であることが知られている。またその治療としてメクトビ+ビラフトビ+アービタックスという化学療法が大腸癌ガイドライン 2022 年版より掲載された。同レジメンは臨床試験において、有意に全生存期間の延長を認めている。本研究では当院で BRAF 遺伝子変異を有することが確認された切除不能進行再発大腸癌患者を対象とし、臨床・病理学的特徴を解析し、予後を検討する。解析項目としては、疫学的特徴、腫瘍の局在、病理学的特徴、転移部位、術後補助化学療法・メクトビ+ビラフトビ+アービタックスによる 3 剤併用療法施行の有無における生存期間と無増悪生存期間、本研究により、予後不良な BRAF 遺伝子変異を有する切除不能進行再発大腸癌の早期発見や適切な治療法の選択の一助としたい。
	研究対象者	2015 年 6 月から 2022 年 10 月までに、当科において BRAF 遺伝子変異が確認された切除不能進行再発大腸癌患者を対象とする。
	研究期間	西暦 2022 年 12 月 19 日～西暦 2023 年 10 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	☐ 血液 ☐ だ液 ☒ 臨床検査データ ☐ 病理組織 ☐ 排泄物 (尿・便) ☐ その他 (記載して下さい) ☐ 毛髪 ☒ 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター研 究責任者	小野由香利
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	大腸外科
	共同研究の場合、共同研 究機関および各施設で の研究責任者	なし
試料・情報の利用停止および 情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター・大腸外科・小野由香利	